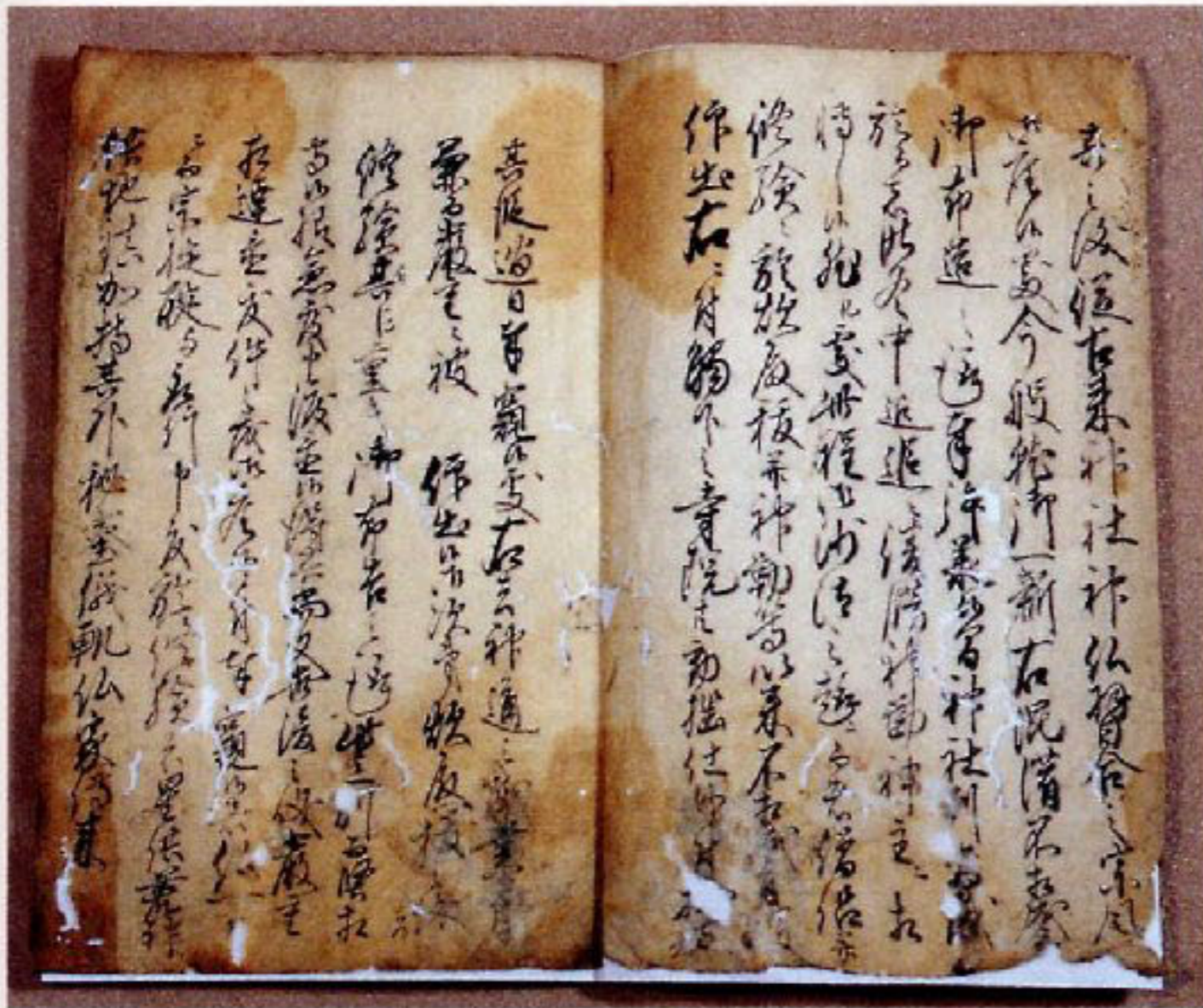


2 神仏分離と實相院 じつそういん

新編相模風土記稿の御霊社の項に「村の鎮守なり、本地
 仏大日を置く、祭礼九月二十七日、實相院持、以下略」と
 あり、また實相院の項に「当山派修験、中略、本尊不動」
 とあるように、現御霊神社の宮本宮司家は明治元年（一八
 六八）に神仏分離令が發布されるまでは「實相院」という



古文書の神仏分離時

真言密教三
 寶院当山派
 修験の寺院
 の法主で御
 霊神社の別
 当職も兼ね
 勤めてい
 た。
 宮本家の
 屋敷東端に
 は實相院の
 不動堂と
 護摩堂があ
 ったが、明

治初期に全国的に行われた廃仏毀釈によりすべて撤去され
 て廃祀となった。『法印大先達慶藏院玄了居士、権大僧都
 慶藏院養達法印峯位』などと墓石に刻まれているのは、そ
 れぞれ實相院法主の僧名であるが、御霊神社に残されている
 る棟札にも「法主慶藏院」と記されており、これらは神仏
 混淆時代の良き証となるろう。

また境内西端のポーンイスカウトの建物が建つ地やその前
 の広場から社有山林、更にその先の住宅地あたりまで昔は
 小さな沢が入っており、その湧水を溜めて弁天池からの水
 と一緒になるあたりで滝を落とし、水に打たれて修行する
 行場があった。（P182～183参照）

實相院が全盛の頃の話と思われるが、各地の真言密教系
 の山伏が集まって、修行の深さを競う「刃渡り」や「火渡
 り」の神事後、池の水の上に紙を浮かせて、その上に乗
 って祈禱する秘儀が行われたが、どこそこの山伏は修業も
 深かったので、ちゃんと紙の上に乗って祈禱ができたのに
 どこそこの山伏は酒ばかり飲んでいいるから、罰が当たって
 池に沈んで濡れ鼠になっちゃったなどと、地域の古老た
 ちが話していた。この類の伝承にありがちな脚色も多少あ
 るうが、昔ここに湧水を溜めた池があったことを物語る貴
 重な伝承である。

皇国地誌に「溜池、本村の北の方字宮の台にあり東西八

間南北十四間三尺面積六十五坪深平均一丈一尺田一町一反二畝歩の用水に供す」

とあり、皇国地誌が発刊された明治十二年の段階では既に灌漑用水の溜池になっていたことがわかる。

神仏分離で實相院が廃祀はいしされてからは、皇国地誌記載の通り、滝を壊して堤防を築き、渇水時に村岡川沿いの水田を潤す灌漑用水池に変えた。最初は小規模な池だったようだが、昭和になってからは、中和田村の公費で数度にわたって改修が行われ、コンクリート製の水門や、満水時の排水路等を備えた本格的な農業用灌漑施設となり、「お宮の池」として近郷に知れわたった。夏になると悪童たちの水遊びの場になったが、湧水のため真夏でも水が冷たく、事故もあつたりして遊泳は禁止されていた。

昭和四十年頃、付近の住宅開発に伴って境内の緑陰が横浜市「子供の遊び場」として貸与された。池には水が張られてはいなかったが、ザリガニが棲みつき、これを採る子どもたちに危険があつたので、住宅造成残土で埋められた。

今、境内社として祀られている日枝山王社、金比羅社、大日大聖不動社は、神仏混淆時代に修験行場にそれぞれ祀られていたものを再興したものである。

3 山岳信仰碑と山岳信仰

御霊神社の鳥居右奥の高台に、木曾の御嶽山おんたけさんを信仰する「起立講」の御嶽山遥拝所ようはいしよがある。

高台の頂上部で二十畳ぐらいの広さがあり、富士講の富士塚のように人工的に土を盛って作られたもので、神社の境内では一番高い所になっている。

中央に明治七年（一八七四）十二月建立の國常立尊くにじょうたけのみことの外三つの神社名が刻まれた自然板石ばんせき碑が建ち、わきに御影石の大黒様、一番左側には、神武天皇白川神社と彫られた明治十年の建立の自然板石碑がある。

起立講の人たち



御嶽山自然板石碑

は毎年八月一日に碑の前に集まり、敷地の掃除をした後、般若心経を唱えてお参りをし、翌日三、四十名の人たちが一泊か二泊ぐらいの行程で、木曾の御嶽山に王滝口から登山してお参りをしている。

このほか泉区内で山岳信仰が今でも続けられているところは、和泉三家の「御嶽講」である。三家では日枝神社の境内に祀られている御嶽神社、第六天神社、白神社の春祭りの後、奥多摩の「武州御嶽神社」に、毎年数名の氏子が代参でお参りをしている。

中田でも下村の鈴木信夫氏の屋敷隣に御嶽社が祀られており、下村、葛野の十名の講中によって維持されている。また毎年数名が武州御嶽神社にお参りしている。

大山講も一時期まで各地域で熱心に行われていた。今ではお参りした後、夜は熱海や湯河原の温泉へ行くという観光を兼ねた講が多いようであるが、最近、本来の講組織結成の萌芽も見られるようである。そのほか三峰山や秋葉山などの講中もあったが、講組織として残っている地域はないようである。

また熱心な信仰の証であった石碑の建立など文字塔として残っているものは、富士塚の富士講碑、路傍の石神仏と一緒に祀られ、また神社や寺の境内に遷されている出羽三山供養碑、熊野三社権現祠などがある。

これらの中で、上和泉の並木谷戸にある出羽三山供養碑の数基には、明和年間（一七六四〜一七七二）をはじめ文化、文政の頃のものも多く、建立の導師を和泉の密藏院が勤めている。出羽三山参りの先達をしたのであろう。安西長善坊、安西法泉坊、安西善寿坊などと、僧名を授けてもった「正穩院」の名も刻まれている。

なお下飯田の琴平神社境内にある白山神社は、神仏混淆時代に琴平神社の別当を勤めた東泉寺の住職が祀ったものである。曹洞宗では現在でも、永平寺の修行僧が毎年夏に加賀の白山に登山してお参りをしている。



上和泉の出羽三山供養碑